

第3回 国際交流プログラム IN 台湾

国際教育研究センター、福祉・教育実践センター 共催

今年も、国際教育と国際交流を推進する目的のもと、台湾の福祉に触れることや輔仁大学の学生たちとの交流など、盛りだくさんの行程で国際交流プログラムを実施しました。

参加者は、人間福祉学部・看護学部の教員3名、国際政策学部、人間福祉学部、看護学部の学生7名です。多様性のあるにぎやかなメンバーで3泊4日のプログラムを実施しました。

1日目（3月24日） 玉蘭荘訪問

玉蘭荘は、日本語でケアを提供する高齢者デイケアセンターです。日本にルーツがあり、日常生活に日本語を話す高齢者の集いの場となっています。

山梨県と方言についてプレゼンテーションをしました。興味関心を寄せていただき、質問が多く寄せられました。利用者の皆さまとは再会の約束をいたしました。



写真1 玉蘭荘の玄関



写真2 利用者の皆さまとの記念写真

2日目（3月25日） 輔仁大学訪問

キャンパス訪問前に、輔仁大学前の歩道橋で記念写真を撮影したのですが、スケールが桁違いです。広大なキャンパスの全容は写真には収まりません。

輔仁大学は、多民族の学生が在籍しています。カフェテリアやフードコートが複数あります。多様な食事メニューを提供していることに驚きでした。オリンピック選手を輩出しているという体育学部の男子学生たちと打ち解けてコミュニケーションを深めることができました。



写真3 大学前で記念撮影



写真4 学食(フードコート)の様子



写真5 隣に座った学生と意気投合

昼食後、外国語学部日本語学科2年生の授業に参加しました。

山梨県立大学の学生からは、山梨県の観光地の紹介、方言でのコミュニケーションについてなどクイズ形式のプレゼンテーションを提供しました。ホジン大学の学生からは、台湾情報（朝ごはん、タピオカ、夜市、お菓子、お土産等）について流暢な日本語でのプレゼンテーションがあり、外国語である日本語を使いこなす姿に驚きです。フリートークの時間では、大学生同志すぐに打ち解けてみんなが笑顔になりました。



写真6 山梨県のプレゼンテーション



写真7 授業後の集合写真

今回は、初の看護学部生参加ということで、次年度からの本格交流始動に向けて看護学科へのご挨拶に伺いました。キャンパス棟、併設の病院、医学ミュージアムを見学しました。看護技術演習に熱心に取り組む様子や恵まれた実習環境、台湾の医学の歴史を概観できるユニークな資料館など、貴重な時間を過ごしました。次年度以降の学生間・教員間交流をご快諾頂けたことは大きな成果となりました。



写真8 看護学科の先生方からのウエルカム



写真9 看護技術演習の様子



写真10 広大な構内から医学棟を臨む



写真11 学内の医療ミュージアム

3日目 (3月26日)

ホジン大学清水裕美子先生の地域貢献活動見学 (萬華龍山老人服務中心)

日本の社会福祉協議会に類似する、地域住民を対象とした介護予防の取り組み、配食サービス等を実施する機関を見学しました。3階には、地域に暮らす高齢者を対象に日本語教室や体操教室、卓球教室等の学習や運動ができる部屋がありました。日本語教室には、10名ほどの参加者がおり、日本語での交流を楽しんでいました。学生たちも少人数グループをくみ、和気あいあいと日本語でのコミュニケーションを深めていきました。このセンターのある地域は、台北市でも貧困層が暮らすエリアのため、配食や生活必需品を提供するサービスも実施しているそうです。

4階は視覚障害者の自立支援施設でした。急遽、短時間ですが見学させていただくことができました。自立にむけた訓練や評価をする施設や設備について説明を受けました。通訳をしてくれたホジン大学大学院生の学生も、高齢者や障がいのある方の福祉や医療に関する初めての通訳に奮闘してくれました。お互いに良い学びになりました。



写真 12 萬華龍山老人服務中心 入口の看板



写真 13 日本語クラスの親日家の皆さま



写真 14 左右がわかるように装飾した通路



写真 15 触れてみる地球儀と対応リスト

もちろん、視察や交流の合間時間では、観光や文化視察も行いました。

参加者全員が行ってみたいと希望した九份や、日本統治時代を思わせる街並みにそれぞれの思いを馳せながら散策、ショッピングや食べ歩き等々、3泊4日のプログラムはあっという間に過ぎていきました。

このプログラムでは、台湾の福祉文化にふれることができました。また、日本を外国視点から再発見できる機会が多くあり、今後の学習や生活に刺激をうけた内容でした。

